

IBD ネットワーク通信 2022 年春号に一部加筆

緊急声明「ウクライナへの軍事侵攻は即時停止を、戦争反対です」の発出について

3月22日、ロシア軍によるウクライナへの一方的軍事侵略は世界を変えました。

SNS や報道者によって「生中継される戦争」で、それまでの平穏な人々の生活が壊される様子が伝わり、「わが身に起きたら」とリアル感が半端ありません。恐ろしいことです。

そんな中、「現地の IBD 患者はどうなっているのか」と、EFFCA(欧州クローン・潰瘍性大腸炎協会連盟)のホームページを見ると、ウクライナに IBD 患者団体「フルライフ」がありました。ご縁のあった製薬会社より「2015 年時点で HBK(非特異的潰瘍性大腸炎)の患者 9,023 人、クローン病(XK)の患者 2,054 人」との情報を頂きました。「フルライフ」のホームページの更新は、ロシア侵攻の翌日で止まっていました。

日本の障害者・患者団体で何か意見表明しているか調べたら、日本障害者協議会(JD)さんが、3月2日に緊急声明を発表されていました。

～障害のある人にとって、「障害発生の最大の原因は戦争による暴力です」「戦争と障害者のしあわせは絶対に両立しません」。これは人類の歴史の教訓です。

～人権と平和を守ることを宣言した国際障害者年(1981年)を機に私たち JD は結成されました。いまこそ平和と民主主義を求めるウクライナの人びと、世界の障害関係者と連帯して、こころから訴えます。

NO WAR! 戦争反対!



勇気ある JD さん声明に励まされ、患者団体としては異例かもしれませんが、戦争反対の緊急声明発表を理事メンバーに相談しました。上記の現地情報も追記し、3月27日理事メンバーの総意で決定しました。

緊急声明は、先行された JD さん、他の患者団体の参考にと IBD ネットワークが加盟する日本難病・疾病団体協議会(JPA)、当事国である、ウクライナとロシア連邦の日本大使館、日本も積極的に停戦と復興に役割を果たすよう、衆議院・参議院の外交担当委員会委員長に送付しています。

早速 JD さんから反響があり、送付した手紙と声明を役員と加盟団体に共有されたこと、日本在住のウクライナの方にも紹介頂き、その方が「確かに、ウクライナの一部の地域で食料の供給が制限されているため、炎症性腸疾患の人たちが苦しんでいます。このニュースをウクライナのパートナーに紹介してはいかがでしょうか?」とやり取りが始まりました。

また EFCCA はヨーロッパの IBD 医師団体 ECCO に働きかけ、声明を発表しウクライナへ IBD 薬品送付や寄付を募っていることが判り、EFCCA とも連携できそうです。



IBD ネットワーク加盟団体でも、北海道 IBD では独自に「北海道 IBD 宣言」～未来に向けての約束～」が4月17日採択され、姫路 IBD では5月8日に募金活動を行う事を決定されました。

戦争が止まっても、生活と社会の復興が控えています。長い時間がかかるからこと、持続的な支援と何より「戦争を起こさないための対話」に価値を置きお互いの立場を尊重し理解しあう仕組みが必要です。

私たち NPO 法人 IBD ネットワークは、平和と民主主義を求めるウクライナの人びと、戦争に反対する世界中のたくさんの人々と連帯して、こころから訴えます。